

# 若い世代に健康知識を

## 本社が弘前で企業向けセミナー

### 中路教授「職場の取り組み重要」

短命県返上に向けて、東奥日報社は28日、弘前市民会館で企業向けの「健康経営応援セミナー」を開いた。弘前大学大学院医学研究科の中路重之教授が講演し

「働き盛り世代の死亡率を下げるために、若い世代が健康の知識を学ばなければ」として、職場での健康づくりの重要性を強調した。約100人が出席したセ



職場での健康づくりの必要性を語る中路教授

ミナーで、中路教授は「本県では、特に40〜60歳代が、がん・脳卒中・心筋梗塞と

割合が高い」と指摘した。若い頃からの生活習慣や検診受診率の悪さなどが背景にあるとし「学校には健康の知識を身に付ける仕組みがない。会社での取り組みが重要」と強調。職場での健康宣言や、検診のデータを生かした健康計画づくりの必要性を訴えた。

また、県が「生活習慣

病対策課の嶋谷嘉英課長が県の現状や対策を、全国健康保険協会(協会けんぽ)青森支部の高田信也・企画総務部企画総務グループ企画リーダーが協会けんぽの取り組みをそれぞれ解説。市内の先進事例として、北星交通の下山清司社長と栄研の清藤崇社長が自社の取り組みを紹介した。

セミナーは、県商工会議所連合会と全国健康保険協会青森支部が特別後援し、アクサ生命保険が特別協賛。花王、タムラフォーム、ワタカンが協力した。詳細は11月の本紙朝刊に掲載予定。同セミナーは10月25日に五所川原市でも開催する。(三浦康平)